

Nintendo Switch、国内累計 2500 万台を突破！

歴代ソフト売上トップは累計 726 万本の「あつまれ どうぶつの森」。

ゲーム総合情報メディア「ファミ通」は、任天堂が2017年3月3日に発売したゲーム機「Nintendo Switch」(以下、ニンテンドースイッチ)の国内推定累計販売台数を以下の通りまとめました。

■「ニンテンドースイッチ」国内推定累計販売台数

(集計期間:2017年3月3日~2022年6月12日/販売週数:276週)

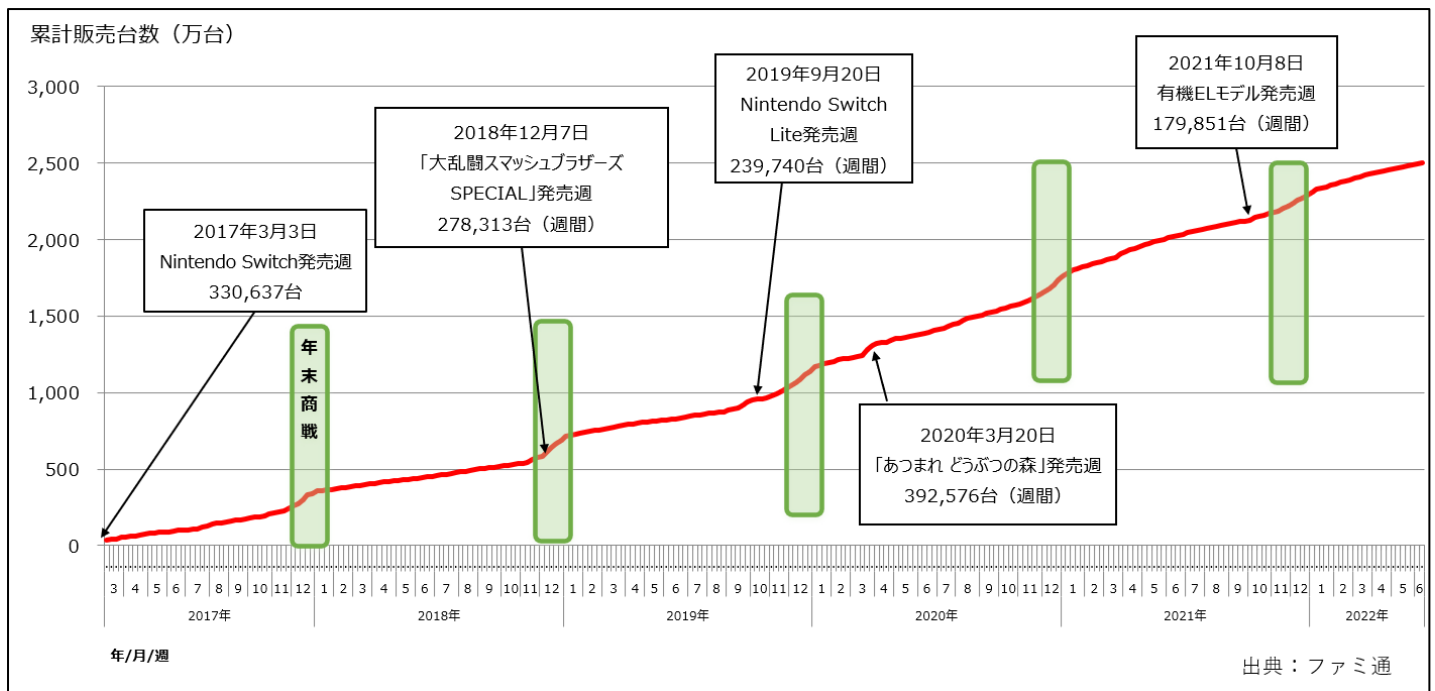
国内推定累計販売台数: 25,010,404 台

<内訳>

Nintendo Switch:	18,379,851 台
Nintendo Switch Lite:	4,754,257 台
Nintendo Switch(有機 EL モデル):	1,876,296 台

【ニンテンドースイッチ 国内推定累計販売台数推移】

(集計期間:2017年3月3日~2022年6月12日)



【ニンテンドースイッチ向けソフト 国内推定累計販売本数 TOP5】

(集計期間:各発売日～2022年6月5日 ※1週前までの集計)

単位:本

順位	タイトル名	メーカー	発売日	推定累計販売本数
1	あつまれ どうぶつの森	任天堂	2020/3/20	7,261,929
2	大乱闘スマッシュブラザーズ SPECIAL	任天堂	2018/12/7	4,895,873
3	マリオカート 8 デラックス	任天堂	2017/4/28	4,664,614
4	ポケットモンスター ソード・シールド	ポケモン	2019/11/15	4,345,336
5	スプラトゥーン 2	任天堂	2017/7/21	4,086,738

※出典:ファミ通

今回の速報について

任天堂のゲーム機「ニンテンドースイッチ」(2017年3月3日発売)は、発売から276週(約5年3ヵ月)で国内累計販売台数2500万台を突破しました。

なお、2011年2月発売のニンテンドー3DSシリーズ(6機種合計)の累計は2459.5万台となります。ニンテンドースイッチの累計は、2022年5月1週時点で同ハードを上回ることとなりました。

ニンテンドースイッチ向けのパッケージソフトでは、「あつまれ どうぶつの森」(任天堂/2020年3月20日発売)が726万本※を売り上げ、累計販売本数トップとなっています。

今後、「スプラトゥーン 3」(任天堂/2022年9月9日発売予定)や「ポケットモンスター スカーレット・バイオレット」(ポケモン/2022年11月18日発売予定)といった人気シリーズの新作の発売も控えており、さらなる販売台数の伸びが期待されます。

※ソフトの累計販売本数は2022年6月5日まで、パッケージ版のみの集計となっております。(ハードの累計販売台数は2022年6月12日までの集計。)

※本データを記事などに使用する場合は、出典が「ファミ通」である事の明記をお願いします。

※本調査データは、KADOKAWAグループのシンクタンクである角川アスキー総合研究所が調査し、KADOKAWA Game Linkage に提供しています。

◆ファミ通について



ファミ通グループでは、ゲーム総合誌「週刊ファミ通」(毎週木曜日発売)をはじめとするファミ通各誌、「ファミ通.com」や「ファミ通 App」といったゲーム情報サイトなど、様々なサービスを展開しています。また、電子出版事業にも積極的に取り組み、「週刊ファミ通」電子版や、ゲーム攻略本・設定資料集の電子書籍を多数配信しています。

<https://www.famitsu.com/>

◆株式会社 KADOKAWA Game Linkage について



株式会社 KADOKAWA Game Linkage(代表取締役社長:豊島 秀介)は、株式会社 KADOKAWA の100%子会社です。「ファミ通」「ゲームの電撃」ブランドをはじめとする情報誌の出版、Web サービス運営、動画配信といったゲームメディア事業を展開しています。そのほか、グッズ制作やイベント企画・運営、e スポーツマネジメントなど、ゲームにまつわるあらゆる分野で新しい価値の創出に挑戦。ゲームとユーザーの熱量を高め、ゲームの面白さや楽しさをさらに広げてまいります。

公式サイト URL: <https://kadokawagamelinkage.jp>

◆株式会社角川アスキー総合研究所について

角川アスキー総合研究所

KADOKAWA ASCII Research Laboratories, Inc.

角川アスキー総合研究所は、KADOKAWA グループに属する法人向けのシンクタンク、リサーチ・メディア企業です。KADOKAWA グループの持つコンテンツ力、メディア力、リサーチ力に関する技術力を活かし、日本のメディア・コンテンツ産業に貢献すべく、課題となる重要テーマに日々取り組んでいます。
公式サイト URL: <http://www.lab-kadokawa.com>